



國家圖書館 編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

36

國家圖書館出版社

六月四日

六月三日



國家圖書館
編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

36

國家圖書館出版社

第三六冊目録

昭和五年（一九三〇）旅行日誌（第二十七期生）

高橋宏

友添健策

昭和六年（一九三一）旅行日誌（第二十八期生）

横田芳郎 宇珪多命英 森山宣夫

三木善吉 山口正助 石崎光 草野豊 諸富好一 高橋武雄

南方嘉一郎 青木修二 奥村榮 坪川榮吉

妻木正三 原口五郎 若林一郎 安念信弘 白井金彌

木場順平 橋本喜久哉 吉岡直

岩田由一 關家三男 莊子勇之助

岩下輝夫 石田幸三郎 石橋春男 長谷川稔 門井博

五島利一

第八十七卷 一
第八十八卷 三三

第一卷 一二七
第二卷 一六七
第三卷 二七一
第四卷 三五五
第五卷 四〇三
第六卷 四五九
第七、八卷 五一五
第九卷 六一七

旅行調查日誌

第三十七期生

高橋宏

第八十七卷 調査旅行日誌

五同園
書文
食

午前七時半起床一昨日より腹部膨満未ダ癒へズ。身仕度ニ
勇ヲ鼓シテ身支度ヲ整ヘ七時半拍手ニ送ラシテ校門出
此ノ日恰モ日曜ニシテ且北支各地行調査班ノ同行スルモノ多カ
リシカハ大連碼頭ハ黒服ヲ以テ埋メラシ同船ノ露支人驚キノ目
ヲ見張レリ。

九時出帆ノ銅鑼鳴リワタリヤ岸壁上ヨリ院歌謡ヲ起リ激
勵ノ声所々ヨリ起リ生等ヲシテ大旅行ノ重大ナルヲ思ハシメ
感慨無量ヲラシム。

老翁が乗船奉天ハ吳淞沖ニ差シ掛ルヤ支那人ホーイハ
「收票ル」ト連呼シテ三等船客ヲ客室内ニ檻禁同様ニ
閉ヂ込メ罪人ニ對スル態度モテ乗船券ノ回收検査ヲ始メタリ。

三ノ間約一時間半ノ長時ニ経リ其ノ間熱氣ト悪臭ト腹痛ニ
攻メラレ身心極度ニ疲勞シ爾後旅行ノ終リニテ苦シメラレシ
病的受難ハ究竟ニ之ノ時ニ端ヲ發ス。

午後三時衛生係ヨリ下劑ヲ貰ヒテ服用セルモ用量僅少
ナリシ故カ効カナク増々腹部ニ変調ヲ來シ始ム。

同船諸兄ハ或ハ社交室ニ遊ビ或ハニ等方面ニ知人ヲ訪ネテ
愉快ラシキモ小生ハ只一人船室ニ臥スル間ニ何時トハ知ラス
寢付キタリ。悪夢ヲ見テ盜汗多カリキ。

六日二日。

海上風波靜穏ニシテ熱氣モ昨日ヨリ稍減シタルヲ知キテ以テ
空氣惡シキ船室内ニテ苦シムヨリハ新鮮ナル海氣ヲ吸ハントテ
甲板ニ出デタルニ間モナク山東ノ山々突出シテ紫色ニ霞ミテ左舷
ニ見ヘ初メ青島ニ近キヲ示ス。同行諸君ノ船中ノ服裝余リ見苦

エリ又寒氣ヲ感シテレハ船室ニ取リ検温セルニ微熱アリ。

十時半 錨ヲ下ス音シテ泊ス。檢疫アル故甲板ニ整列セヨト事ナレバ甲板ニ整列セル奉天丸ハ加藤島沖ニ假泊シテアリキ。陸上ヲ眺ムルニ赤屋根白壁ノ家海岸通りヨリ山中ニテ立ケ列ビテ人ヲシテ樂シコシム。

待ツ程モナク前面ノ海軍棧橋ヨリ小蒸氣離シテ奉天丸ニ来リ檢疫官ハ船員乗客ノ実數ヲ船長提出ノ申告書ト比較シ船員乗客ノ顔色ヲ見テ辭シ去レリ。南ク所ニヨレハペストコレラ疫瘡、猩紅熱、黃熱、腸チフス、発疹チフス、ゲフテリヤ、赤痢及流行性腦脊髓膜炎、又ハ疑似以上各病症ノ有無ヲ檢スルナリト。

檢疫官退去後再び錨ヲ挙げテ運航ヲ開始シ台西鎮ノ岬ヲ廻リ航路ヲ指定スル浮標ニ従ヒテ大港ニ向フ。

途中、洋艦思疑り、始て日本駆逐艦四隻、米國支那艦隊等ヲ見ル。米國艦隊ハ八月末迄多港停泊ノ豫定ナリト。

青島ニ上陸セシハ正午ニシテ一路海軍協会ニ至リテ宿泊ノ申込ミヲナス。

海軍協会ハ大正四年九月創立セル海友会ノ發達セルモノニシテ海軍協会ト改称セルハ大正八年度ヨリニシテ大正九年三月四万円ノ工費ト九個月ノ日子ヲ費シテ本館ヲ新造シ大正十一年ニ至ルヤ宿泊、入浴、娛樂ノ設備ヲ拡張スルニ至レリ。

今ノ事業トシテハ海員慰藉、海員救済、海員養成、海軍思想ノ普及、船舶ノ調査損害ノ調査鑑定等ヲナスモ其ノ設備ハ娛樂、職園トシテニ台ノ撞球台ヲ始メ碁、將棋、ピムボン、蓄音器等ヲ備ヘ屋外ニハ土俵、大弓場等アリ。食堂ノ設ケモ有リ。

テ酒、食物、多ク市價ヨリ遙カニ安價ニ供給ス。

宿泊者ノ爲ニ大いナシノ日本室アリテ其宿泊料モ低廉ナリ。
浴場ハ大いニ個々槽ヨリ成リ一時ニ数十名入浴スルヲ得。

此ノ他、海事ニ関スル圖書及談話室アリテ、学生旅行ノ宿泊
所トシテハ最通当ナル所ナリ。

海事協会ニテ晝食ヲ攝リタル後、母ノ病勢如何ト同班諸君
ニ別レテ車ヲ飛バシテ家路ヲ急ギタリ。家ニ至リテ見レハ母ハ
相変ラズノ病勢ニテ一泊ノ間ヲ病室トシテ横臥シ居レリ。
小生ヲ見テ喜バシケン笑ミタレト。後小生ノ顔貌ヲ見テ病ニ非
スヤト問ヘリ。小生ハ病氣ナルヲ秘セントセシモ、安んト船中ノ疲
勞一時ニ出ヅ、遂ニ腹悪シキ由ヲ告ゲテ母ト床ヲ共ヘテ休
事トセリ。賴温ニタルン又微熱アリ。言葉少ナニ談リタレト
疲レテ寝ニ付キタリ。

二月三日

今日ハ終日休養ス。病勢何進スルガ如ク便意アリトモ便通更ニナクハ愉快ヲ極ム。午四時頃村田君ヨリ明日夕刻遊ビニ来ルトノ電話アリタリ。

夜妹等ト上海ノ話ヲセトモ氣勢昇ラス。母モ発音不明瞭ノ為長ク話ヲ交フル能ハス。人物思ヒニ耽リテ寤付ヤタニハ午前三時ナリキ。微熱相変ラス。

二月四日

今日ハ晩ク眠中覺メタルモ拘ラス。冷々トシ山々ノ頂ニ霧掛リ居リ。村田君等ノ夕食姉ト頼ミ遣キ仕度整ヒタル由ナレハ午四時車ヲ海軍協会ニ迎ヘン行ク。来表村田君ノ班員一同ト矢尾氏ナリキ。夕食佐雜談ヲ一時間許リテ別レタリ。送りテ門前ニ至ルニ霧一面ニ掛リテ霧笛ノ音海ヨリ聞ユ。

疲勞勞テ直テ寝ヌ。

六月廿日。

朝食ト晝食ヲ絶食シテ正午ヒマシヨヲ用フ。夜ニ入リテ効力顯
ニ腹部膨滿ノ感ヤ、減退セシモ身体ノ衰弱著シ、夜粥ヲ取
リテ早クヨリ横ニナル。悪夢ニ襲ハル、事數次、盜汗甚ダシ。

六月廿日。

今日ハ頭輕ク氣分ヨシ、身体ノ衰弱ハ相変ラズナリ。午前中看
魯病院ニ行キテ松村医師ニ投藥ヲ請ヒ途中海事協会ニ至リ
同班諸君ニ無音ノ申訳ヲナシ並ニ其ノ後ノ動靜ヲ問フ。

飯余家僕ノ勸告ヲ思ヒ起シ蒜ヲ買入レ晝食時ヨリ食ヘ始
ム。午飯湯スル事甚シク分量ニ番茶ヲ取ル。胃腹痛ニテ渴
スルハ吉兆ヤリトナル程快方ニ伺ヘルガ如キ心持ス。夜茶ノ用ニテ
兄弟等ト物誌リテ樂シ。夜夢ヲモ見ス熟睡ス。

七月七日

氣持宜シ、蒜ヲ盛ニ食シテ皆ヨリ指彈サル。庭ニ出ズ、島、太、大
等ヲ見ル。大ニ頭皆小生ニナレテ可愛シ。一日無為ニ暮ス。
晩食ニヤ、味アリ。今夜ニ熟睡ス。

八月一日

前日ヨリ更ニ宜シ。体力加ハリテ何トナク樂シ。大ヲ連レテ家近
所ヲ散歩ス。昨夏荒地ナリシ所ハ皆新築家屋ニテ蓋シ
散歩モ道路上ヲ行ク限ラレタリ。曰ク露国教会、同附屈孤
院、万国療養院、露人経営ノ下宿屋ニ棟、露国料理店
ヲ始メトシ、米、独、支人ノ住宅等ニシテ日本人ハ皆カ家一軒
並ニ金江路草分ケノ任人トナル。以前山ヲ下ラザレハ見ラレザリ
シ人カ車モ教会前ニ待テシ烟草屋モ家ノ前ニ露店ヲ出ス
等便利ハ便利ナレト海ノ眺ヲ害セラレ且雑音多キ等一害モ有リ。

夜母ニ促サレテ知人ヲ訪問セントシタルモ蒜ノ悪臭人ノ感情ヲ
害セン事ヲ怕レテ取止ム。家人ト雜談數刻後紅樓夢ヲ
見テ寢ス。

又月九日。

午前十時海事協会ニ至リシモ皆調査ニ出デ、留守ナリキ。
暇途青島新報社ニ先輩久慈氏ヲ訪問シタルモ氏モ亦
所用ニ外出セラレシ折ナレバ久能氏ニ面會会シ調査ノ手順、訪
問スベキ人、場所ニツキ指導ヲ受ケ暇ル。午後再び海事協会
ヲ訪問シタルモ今固ハ班員諸君ニ面會スルヲ得タリ。皆ノ調
査ノ殆ト完成ニ近オヲ知リテ大ニ驚キ。後皆三日月濱
海水浴場ヘ行クトノ事ナレバ同行ス。

三日月濱ハ即チ海事協会前ノ濱ニシテ諸幅、忠海、舞鶴
濱海水浴場ニ比シテ狭キ恨アルモ波穏ニシテ邦人勢力中

心地タル市場跡新市街方面ヨリ来るルニ最便利ナル場所ナル故邦人ノ水泳者ハ多ク此所ニ集ル。青島体育協会ノ水泳部モ此ノ濱ニ設ケラレテ初ハ兒童ノ水泳ノ教授監督ヲナス。

班員諸君ハ愉快氣ニ水泳サンシモ小生ハ腹部ノ冷ニテ怕レテ水ニ入ラス間モナク分レテ歟ル。

明日ヨリ久能氏ノ指導ニ基キ調査ヲ開始セン。

夜久ニ振リミテ小生等トラゾヲナシ笑フ。今日十日振リニ入諾センタメ寝付カズ苦シム。

五月十日。

朝食後直ニ館陶路日本商工會議所調査課ニ先輩伊沢氏ヲ訪問ス。同氏ノ懇切有益ナル談話拜聴後膠澳商埠局編「膠澳志」ヲ拜借シソノ調査目的ニ適合スルヲ知リテ驚

晝十二時半迄調査課内ノ一卓ヲ借りテ読ム。

晝食後ハ休養ト定メテ母ノ相手ヲナス。

役知人若林氏ヲ訪問ス。

三月十一日。

午前、午後共ニ商工會議所内ニ居リテ膠澳志ヲ讀ミ必要
箇所ヲ筆記ス。

夜、海軍協会一行オタルニ皆調査終リタル如ク当市出港ノ相談
ヲナシ居レリ。後皆ト共ニ山東町歸町一帯ヲ散歩シタルモネオン
サインノ光ナク人モ少ナク興味カナシ。コーヒーヲ飲ミテ別ル。
霧立タハメテ街路樹ノ電燈ニ照サレテ見事ナリ。

三月十二日

午前中商工會議所ニテ膠澳志ヲ見ル。

午後青島氣候ニ関シ測候所ノ伊藤氏ヲ訪問ス。